

【 相談履歴 一部抜粋 】(平成 22 年)

相談日	相談者	聴 取 内 容
3月5日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活が苦しい。生活保護の申請ができないか。 ・ 眠れない。四六時中フワフワしていてうつろな感じ。 ・ 食欲が出ない。 ・ 無理に食べてもふた口目には食べたものを戻すの繰り返し。 ・ 胃腸の調子が悪く、専門医で検査するも異常なし。 ・ 簡易裁判所からC宛てに「支払督促状」が届いた。 どうすればよいか。 ・ Cの借金先以外からの取り立て電話がかかる。 ・ <u>家・土地を担保に入れた借金(不動産担保ローン)</u>があり、 債権者から不動産を取り上げられないか不安。 ・ ヤミ金からBのパート先に借金取り立ての電話が入り、 嫌がらせ のため、仕事を辞めざるを得なかった。 ・ CがBの財布から現金を持ち出すようになった。 ・ Bのキャッシュカードから、Cが勝手に現金を引き出す。 ・ Cは、Bの入院費を稼ぐためにパチンコをしていたと思う。 <u>パチンコで負け、友達から金を借り、姉Dが100万円を返済。</u>
3月11日	B、C	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cは平成16年に破産し、免責が確定している。 破産の弁護士費用を、<u>信販会社からBが用立てしている。</u> ・ ★Cが破産したので、不動産担保ローンは、連帯保証人である Bに債権が移った。(業者に先手を打たれた契約の仕方) ・ Bは、保健師によるメンタルチェック、 Cは、借金の聴き取り・・・それぞれ、別々の部屋で実施。 ・ 家計収支表にて、母子別々にお金の出入りをチェック。 ⇒月額10万円超が用途不明金であった。 ↓ Cに問い詰めたところ、Bには内緒の借金が判明。 <u>「このお金は、母には内緒にしてください。」</u>

3月18日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bがアルバイトに行くと言ったので、アルバイト先を見に行っただが、実際にはアルバイトではなかった。<u>また嘘をつかれた。</u> パチンコに行ったのではないかと不安。 ・ 父親 Aが平成4年に事故死。 ・ 事故による損害賠償金と生命保険金で家を建築。 ・ Cが20歳の頃、恋人にアクセサリー等を購入させられ、ローンの支払いだけを残し恋人に姿を消された経験がある。 ・ Cは、<u>No！と言えない大人しいタイプ</u>で学生時代から、遣いっパシリだった。 ・ Cが「<u>お金！お金！</u>」とBに付きまとい、<u>お金を渡さないと、ずっと目の前に立ち続ける。</u> <u>右に行けば右に、左に行けば左に、外に出れば外についてくる。</u> 何故、お金を渡してしまうのか？の問いかけに、 →つついCが可哀相と思ってしまう。 取り立てられる息子を想像してしまうから渡してしまう。 Cの行動が気持ち悪く、お金を渡すと解放される。 ・ <u>税金とし尿汲取り手数料を滞納しており、不安。</u> 本人に同意を得た上、担当者に相談室へ出向くように依頼。 →納税担当者：一括での支払いではなく、分納が出来る →汲取担当者：分納及び年金支給月に合わせて汲み取る 不安と混乱を取り除くように、わかりやすく丁寧に説明。 ・ Bが家計収支を把握していないので、Bの年金支給日4/15に年金全額を 持参し、利用明細ごとに封筒に仕分ける作業をしようとして約束した。
4月15日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年金支給日：年金仕分け作業の約束日。 「9万円」と「8万円」合計17万円をヤミ金に渡してしまった。 ・ 渡したお金について、領収証をもらってくるように指導。 ・ ヤミ金についてB宅の住職に相談しているとのこと。 →住職は町の行政相談員であったので、住職に接触する旨、Bに了解を得た。

4月20日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話の請求書:知らない利用料(1台分)が請求されている。 ・ <u>Bの了承を得て、荒尾警察署生活安全課へ連絡、同行。</u> ・ 午後からの行政相談会場にて、住職に今までの経緯を説明。 →住職も家だけは取られぬようにと、不動産担保ローンを工面されていた。また、<u>自殺の心配</u>もされていた。 住職は、「<u>絶対にこの人たちを死なせない!</u>」と思われていた。
4月21日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月分の給料がない! ほぼ全額をキャッシュカードからおろされた! ・ <u>Cは、キャッシュカードを紛失したと言っている。</u> <u>Bに対し、絶対に嘘はついていないと言う。</u> →荒尾警察署生活安全課へ相談。 →紛失届を出したのか? 何故、Cの暗唱番号を知っていたのか? 不明な点があるので、警察へ出向くよう指示あり。 ・ Cがパニックになって、家を出た。 ・ 車内から女性名義の携帯電話明細が見つかった。 ・ Bの体調不良。過呼吸、血圧上昇。
4月28日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cが60万円でテレビを2台買い、1台は売ったようだ。 <u>家電製品転売による現金取得という犯罪の意識はなさそうだ。</u> ・ 朝起きたら、玄関の門扉の内側に「借金返せ」の張り紙あり。 警察に連絡し、証拠を記録してもらった。 ・ Bの血圧が200まで上昇し、心臓(ペースメーカー)がバタバタしたので、救急車にて近くの総合病院を受診。 →心療内科の紹介状を出された。 ・ 娘Dの自宅に、借金取り立ての電話がかかる。
4月30日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し息子の肩を持ち、借金の返済の手助けをする母Bの態度が変わっていく(客観的にCを見る)姿をみて、これまで突き放していた娘Dが、Cの通帳や借金返済の管理を申し出た。 Cの車までDが保管。Cは、約20kmを自転車通勤すると決めた。 ・ 警察がBの携帯電話を預かり、直接ヤミ金業者に対応したため、自宅への取立て電話がピタッと止んだ。 ・ 平成22年3月頃、Cの会社の友人が「<u>精神状態が良くないと思うので、病院に行こう</u>」と精神科の入り口まで連れて行ってくれた。 しかし、受診しなかった。受診しなかった理由は不明。

5月6日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年11月頃、Cの友人から果物の<u>梨を「1箱1個入り1万円」を4箱購入</u>。今更だが、この金額はおかしいのではないか？と思えるようになった。<u>息子は、このときも断れなかったのだろう。</u> <u>この頃から、BはCを客観的に見れるようになった。</u> ・借金解決のために依頼している司法書士が厳しいところは厳しく、優しいところは優しく、「父親」のような存在であるので、日頃無口なCが、この司法書士とは楽しく会話をしている。 ・Cが<u>精神不安定</u>のようだ。 →<u>朝食・昼食は食わず、夜は過食症のように食べる。</u> <u>前の日は、とてもテンションが高く、翌朝は沈むの繰り返し。</u> <p>平成22年3月、「息子Cに対して「あんた死ぬ？」と聞いてみた。」 ⇒「息子は黙ったままだった……。耐えた。」</p> <p>このときの「あんた死ぬ？」の言葉には、 「私と一緒に、あなたも死ぬ？」という意味が込められていた。 「息子と無理心中をしようと思っていた。」と話された。</p>
7月5日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Cが友人だと思っていた人から、50万円返せと脅しをうけるようになったと相談。Cは、15万円を借りた記憶はあるが、それ以上の金額を借りたかどうか、<u>覚えていないし、思い出せない。</u> <u>C自身、頭の中のまとまりがないと訴える。</u> ⇒対応について、警察署生活安全課にアドバイスを受けた。 ・警察署は、娘の元夫にも協力を求めている。 ・Cの勤務先に無言電話がかかる。おそらく友人であろう。
7月5日	司法書士	<ul style="list-style-type: none"> ・Cから借金の債務整理の委任を受け、Cの友人に接触。 これまでの貸し借りについて、[内容証明郵便]で借用書なりの履歴を提出するよう求めたが、借用書自体が存在しなかった。また、この内容証明に「Cに近づくな」という文言も記載してある。 ・<u>借用書なしでのお金のやり取りや、高額な梨の売り付け</u>などからみると、Cは、この友人と名乗る者から <u><精神的拘束・精神的虐待>を受けていたと思われる。</u>

8月12日	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cの精神状態が荒れている。明らかに精神不安定だが、病院に行きたがらない。 ・ 勤務中に交通事故を起こして、社用車に傷をつけていた。会社からの問合せに対し「<u>自分ではない</u>」と否定している。しかし、当日はCしか車を利用していないことから、会社側が<u>問い詰めたところ、自分だと認めた。</u> ・ <u>会社では、何も言えずに帰宅後に荒れる。</u> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、 ● 声を荒げる ● ペットボトルを投げつける ● メガネや携帯電話を壊す など ・ Bの心療病院受診日に合わせて、Cを連れて行こうとするが、受診当日の朝から、「やっぱり駄目だ！ 行きたくない！」といい、「何で行きたくないのか？」と聞いても「行きたくないものは、行きたくない！」「バス代がかかる」「自転車で行く」と理由をつけて行きたがらない。 ・ <u>Bは、何かしないといけないと思うと、不安から身体が震える。</u> <p>= BがCに抱く不安 =</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 風呂に入らない。10日に1回入れればいい方である。 2. 洗顔や歯磨きをする姿を見たことがない。 3. 今でも布団をかぶって指しゃぶりをする。 <p>「あの子のしつけは、どうしたらいいの？」 「私の育て方が悪かったの？」 「考えていることがわからない。精神的な病気？」</p>
-------	---	---